



▲実行委員の皆さんと沼田代表理事（写真右）

日本財団が推進する海と日本プロジェクトの一環として、「海との関わり」「地域の誇り」を子ども達に語り継ぐことを目的に、同協会（沼田心之介代表理事）が推進する「海ノ民話のまちプロジェクト」において、松浦市が「海ノ民話のまち」として認定され、星鹿町青島地域に伝わる民話「長者と河太郎（がたろう）」がアニメーション化されることが決定しました。

「長者と河太郎」は、3つの島に分かれていた青島を地続きにしようと奮闘した島民（長者）と海に住むカッパ（河太郎）との交流を描いた物語。

今後は、地域住民や市、関係機関で構成する「松浦市・海ノ民話のまち実行委員会」を通してアニメーションが制作される予定です。



▲集まった食品と浦部支社長（左から2人目）

同社（浦部康志支社長）は、社会貢献活動の一環としてフードドライブで集めた食品を市へ寄贈しました。

フードドライブとは、事業所や家庭等で保管されたままの食品を集め、福祉施設等へ寄付する活動のことで、市への寄贈は今回で2回目となります。

近隣の企業36社や地域住民から寄せられた120サイズの段ボール10箱分の食品は、市の子育て支援に活用します。



松浦の極み認定の松浦アールスメロンまつりが（道の駅）松浦海のふるさと館 漁村体験学習施設で開催されました。

今年は天候にも恵まれ、大玉で糖度が高く仕上がり、例年よりも多くのメロンが用意できました。

当日は、市内外から旬のメロンを求めた来場者で早朝から行列ができ、用意したメロン約420ケースのほか、メロンを贅沢に使ったケーキやメロンソーダなども販売され、メロンが完売する盛況ぶりでした。

8/7  
~ 11

## 市内小・中学生が交流を深めました

まちの話題



### ●ホークス交流事業

8月7日から10日にかけて、北海道鷹栖町児童6人が本市を訪れ、本市の児童と学習交流を行いました。

今回は、鷹島の埋蔵文化財センターガイダンス施設を訪れたり、船釣りなどを体験しました。

また、9日の登校日には市内小学校の平和学習に参加し、平和を祈りました。

送別式では、来年1月の鷹栖町での再会を約束し、松浦を出発しました。



### ●松浦市・木曾町・福島町生徒学習交流事業

8月8日から11日にかけて、長野県木曾町の中学生7人と北海道福島町の4人が本市の中学生と学習交流を行いました。

今回は、鷹島の埋蔵文化財センターガイダンス施設を訪れたり、船釣りなどを体験しました。

また、福島中学校の平和集会にも参加し、同校の生徒と共に平和への祈りを捧げました。

長崎の夏を十分体験した生徒たちは、4日間の思い出と共に松浦を出発しました。

8/11  
~ 14

## 木造校舎で3泊4日の大冒険！

松浦学校共生プロジェクト



日本財団「海と日本プロジェクト 2022」の一環として、山王ひなた美術教室（福岡市成田 章子主宰）が開催している「海の学び舎」において、松浦市共催による新しいプロジェクトが始動しました。

プロジェクトは、夏休みに開催されるA、Bコース、冬休みに開催されるCコースの3つがあり、福岡県近隣在住の小・中学生が福島町の旧養源小学校跡地を拠点とし、3泊



4日でさまざまな体験を行います。

プロジェクトの始動となるAコースでは、1日目に初崎海水浴場で海水浴を行ったあと木造校舎にテントを張り、寝床を準備。土谷棚田で稲刈り体験、大学生ボランティアと一緒に廃プラスチックと竹を活用した秘密基地作り、夜にはグラウンドでの野外上映会や花火を行い、最終日はお世話になった校舎を雑巾がけレースで綺麗にしました。